

他県からの来訪者が多く、愛されています！

茨城県自然博物館にある

# 恐竜の展示の魅力とは？

「動く恐竜」を「羽毛恐竜」へと  
展示を変化させた理由を教えてください。

加藤 2015年に機械の老朽化で、恐竜のロボットが破損してしまいました。当館の展示のなかで非常に高い人気があり、県からリニューアルの予算をいただけたことをきっかけに、恐竜などの展示物を新しい学説にもとづき作り直すことになりました。ティラノサウルスにおいても、その原始的な仲間であるディロングやユティラヌスという恐竜に羽毛の痕跡が見つかっています。



「動く恐竜」を「羽毛恐竜」として  
変化させた時の心境を教えてください。

加藤 私が羽毛の生えたティラノサウルスの復元像を初めて見たのは、2011年の国立科学博物館の特別展「恐竜博2011」でした。その後、2012年の幕張メッセ国際展示場における「世界最大恐竜王国2012」では、羽毛が生えたティラノサウルスのロボットが登場し、羽毛が生えた姿が普及しました。

2017年のリニューアルで、羽毛が生えたティラノサウルスの復元ロボットをおそらく世界で初めて常設展示に組み込んだ博物館となったので、この復元に反対する立場の人たちからの批判的なコメントが来ることは覚悟していました。結果として、ティラノサウルスの成長に伴って羽毛の範囲が変化するという考え方を採用したことで、好意的なコメントを多くいただきました。



現在の展示に生かされている

新しい研究結果はどのようなものでしょうか？

加藤 当館の「恐竜たちの生活」という展示には、当時のさまざまな生き物に関する新しい研究成果が盛り込まれています。ティラノサウルスと同じ時代、同じ地域に生息した植食恐竜であるトリケラトプスのロボットも配置されています。トリケラトプスの足の付き方については、人間でいうと「小さく前ならえ」のようなポーズとする新しい研究成果が出ていました。

その研究者の方に細かく確認しながら、トリケラトプスのロボットを製作しました。また、白亜紀には花を咲かせる被子植物が繁栄を始めた時代でもあるので、白亜紀の花の模型も新しく制作しました。さらに、哺乳類もさまざまな生活に適應し、多様化を成し遂げていたこともわかってきています。そのため、樹上性、半水生、地上性の3種類の新しい哺乳類の模型も追加しました。



## リニューアル後の恐竜

観光客を魅了する「動く恐竜」を展示してきた茨城県自然博物館。「動く恐竜」が2017年にリニューアルされ、「羽毛恐竜」の展示へと変化。その裏にある秘密について、地学研究室学芸委員である加藤太一さんに聞きます。

リニューアル前に展示されていた恐竜



ミュージアムパーク 茨城県自然博物館  
〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700  
TEL : 0297-38-2000  
URL : <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/aboutus/>  
定休日 : 月 (月曜日が祝日の場合は開館し、その翌日以降は休館) / 開館時間 : 9時30分~17時

# 誰もが懐かしい気持ちになれる場所へ



昭和レトロ商品博物館  
 〒198-0084 東京都青梅市住江町 65  
 TEL : 0428-20-0234  
 URL : <https://www.omekanko.gr.jp/spot/01901/>  
 定休日：月・火・水・木 / 開館時間：10時～17時



↑昭和のおもちゃたち。



↓昭和に出版された漫画たち。

今後、どのように残ってほしいですか？

**横川** 応援してくれる人が全国にたくさんいるので、形はどんどん変わってもいいし、中身も変わってもいいと思っています。長く続いていくことがいざばんありがたいですね。今、いただいている入館料は「昭和レトロ商品博物館」を維持するために必要なお金です。

青梅市からもいろいろな形で補助を受けています。そういう支援が続く限り、おそらく続いていくと思います。青梅へ来てくれる人たちの思い出に残り、また来たくなる施設として残ってくれればいいですね。

展示品を寄贈してくれる方とどのようにつながりを持つのですか？

**横川** いちばん多いのは、ここに実際に見に来てくれた人が、「じつは、うちにこういうものがあるの、持ってきていいですか」と申し出る形ですね。あとは、博物館で紹介されたテレビ番組を観て、遠くに住む人が送ってきてくれることもあります。

地元の人たちが、「家でこんなのが出てきたんだ」と言って持ってきてくれることもあります。ほとんどもらったものですよ。

## 昭和から令和にかけて形が変化したものを紹介！



「小梅」の変化



公衆電話の変化



「町おこしになるように」と、商店街の人々が作り上げた博物館。訪れたらきつと懐かしい気持ちに戻れること間違いなし！レトロ好きにはたまらない場所を運営する横川茂弘さんに紹介してもらいます。

「昭和レトロ商品博物館」ができたきっかけを教えてください。

**横川** 昭和から平成の時代になり、商店街が廃れてきています。青梅もイオンモールができてから、町の地盤沈下が起きていて、商店街の人たちの間で、「町にお客さんを呼ぶための施設を作りたい」という話を持ち上がりました。そこで考えたのが、この「昭和レトロ商品博物館」でした。中核になっているのは、串間さんといういろいろな菓子のパッケージなどを収集している方のコレクションです。開館後、全国から「家に昭和の古いものがある」とお話をいただくようになりました。昔のものは邪魔になってもなかなか捨てられないです。だから、基本的にいただいたものを展示しています。



↑昔の三脚カメラ。



↑かつて青梅にあった映画館の看板。

なぜ、昭和レトロなものを展示しているのですか？

**横川** ノスタルジックなものは喜ばれるからです。赤電話のように、ついこの間まではあったけれど、いつの間にかなくなってしまった存在はとくに。

そこで、「昭和を題材としてやるうか」というのが、当時の店主の人たちが考えたアイデアでした。

「昭和レトロ商品博物館」の魅力を教えてください。

**横川** 来てくれる人がいちばん喜ぶのは、かつてはどこにでもあったものや皆が見たことがあるもの、にまた再び出会うことです。

最近若い人たちも来るようになってきました。彼らにとっては、初めて見るようなものがあるのが魅力になっていると思います。



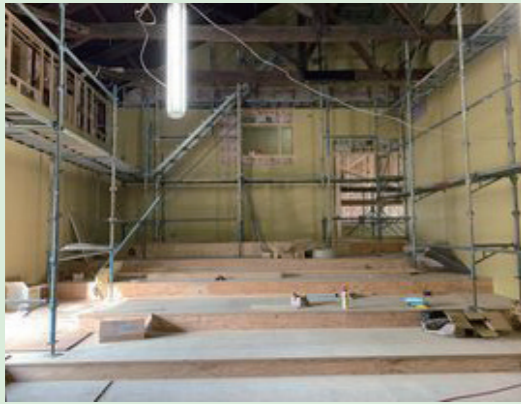


# 国の有形文化財を映画館 「シネマネコ」へリニューアル!



「西の猫町」といわれている東京都青梅市には、猫にちなんで名付けられた「シネマネコ」というミニシアターが存在する。猫と映画好きにはたまらない場所をご紹介します。

「シネマネコ」ができるまでを振り返る



↑施工前の劇場内



↑施工前のエントランス



↓施行後の劇場内



↓施行後のエントランス

「シネマネコ」は、どのようなきっかけで誕生したのですか？  
菊池 もともと青梅には映画館が3館ありましたが、50年前ぐらいに無くなってしまいました。私はもともと飲食店をやっていたので、お客さんと昔話をするなかで、「昔、青梅が映画の町だった」ということを知りました。

菊池 青梅はあまり知られていませんが、「西の猫町」と言われています。青梅には猫にゆかりのある神社などがあり、猫が祀られているからです。

なぜなら、機屋はたご（糸を織物に加工する業者）が盛んだったから。機屋が育てる蚕をネズミが食べるので、ネズミよけとして猫が重宝されていました。

だから、映画と猫で「シネマネコ」にしました。また、映画館に対して、「映画好きしか行けない場所」というイメージを持った若い方たちが来やすい仕掛け作りという側面もあります。

国の登録有形文化財をなぜ映画館とカフェにしようとしたのですか？

菊池 最初から、この場所であろうと決まっていたわけではありません。映画館を作るとなり、いろいろな場所を探しましたが、スペースも必要で、できれば天井が高いほうがいいという考えがありました。

偶然、この建物を有形文化財に登録した人が知り合いにいたんです。地域の活性化などをおこなっていたその方に相談したとき、この場所を紹介してもらいました。もともと青梅は、全国で3番目ぐらいに入る織物の町でした。

700軒ぐらいの機屋があって、昔は織物で非常に栄えた町だったんですよ。現在、機屋は1軒しか残っていないのですが、名残でこうした建物がまだ大切に残されていたんです。

この場所なら、青梅の文化や織物の文化だけでなく、映画の文化も発信できると思い、織物工業協同組合の偉い人に相談しました。使っていいとなりましたが、まさに巡り合わせでしたね。

お客さんが「また青梅で映画を観たい」と話しているのを見ていたら、「映画館をもう一度作れば、その人たちが喜んでくれるのではないかな」と思ったことがきっかけです。

## 「シネマネコ」の名前の由来



館内の様子。

この施設をつくる時に、大変だったことはありますか？

菊池 何事もあまり大変だと思わないタイプで、むしろ楽しんでいます。僕はプロデュースの立場でお金が出しますが、建築やデザインの専門的な知識はありません。職人の方たちが大変だったと思います。

そもそも、木造建築を映画館にすること自体が、法律的に難しかったです。なので、すべて初めての試みでした。最初はみんな不安だったと思いますが、立ち上げるときは、「思いっきりやる」と言えば、大体どうにかなるんです。

どう継続させるのか、というほうが課題になることが多いですね。

「シネマネコ」の生みの親  
菊池康弘さん





## 「シネマネコ」の魅力とは？

**菊池** 建物だと思っています。窓も大きくてエントランスも木の温もりが感じられるようになっています。

経営母体が飲食店なので、料理に力を入れています。映画を観なくても、気軽に利用してもらえるのが、ほかのミニシアターとの違いかもしれません。

スクリーンだけでなく音響装置も、ほかのミニシアターより大きいです。



↑ゆったりできるカフェの様子。



↓カフェの受付ブース。

## この施設を作り上げて、よかったことはありませんか？

**菊池** たくさんあります。映画館を開設したらお客さんが喜んでくれるとか、人が来るイメージを僕だけでなく一緒に働くスタッフにわかってもらえたときは、思い描いていたものを共有できてうれしかったです。

運営しているのはうちの会社ですが、お客様も含めてみんなで作り上げていく空間だということを共有できたとき、自分のビジョンを他者と共有できたときがいちばんうれしいです。



## 国の有形文化財を今後どう後世に残していきたいですか？

**菊池** 古い建物を維持しながら、リノベーションして新しいものを作ることは大変です。しかし、そのこと自体が文化継承になると思います。この場所で働いていたとか、子供のときに遊びに来たことがある人たちが映画を観にきます。思い出がある場所が無くなってしまうとそういう気持ちも

生まれたいと思います。そういう目に見えない価値を残したい。「シネマネコ」はできてほやほやの映画館ですが、地域に根付いて、地域の人たちから必要とされて愛されるような場所になりたいです。



## 遠い地域に住む人たちには、どうおすすめしたいですか？

**菊池** 見逃した作品が「シネマネコ」で上映されていると、けっこう遠くから来てくれます。監督のトークイベントや俳優さんのイベントも月1回とか月2回でやっている好評です。もう一つは、X（旧Twitter）やInstagramでの情報発信ですね。ホームページでも、つねに情報を発信してい

ます。すると、自分の好きなものに興味のある人たち来てくれます。しかし、青梅まで来るのに時間がかかるじゃないですか。映画を観てから食事をするなど、どこか回ることができるようになればおもしろいと思います。青梅の町に、映画館に付随した新しい魅力を開発できたらいいです。



↓シアターの様子。



CINEMA NEKO (シネマネコ)  
〒198-0044 東京都青梅市西分町3丁目123  
青梅織物工業協同組合敷地内  
TEL : 0428-28-0051  
URL : <https://cinema-neko.com/theater.php>  
定休日：火 / 開館時間：9時30分～最終上映終了後

2024年1月9日発行

〒270-0198 千葉県流山市駒木474

江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 マス・コミュニケーション学科 本多 悟ゼミナール 2024 Printed in Japan



EDITOR

新井瑠奈 小島大翔 志水大晟

近藤凜 鈴木言実 星野愛奈 間島知優